

# 内モンゴル「アンダイ」の変遷から見た 「掛け合い歌」の消滅

娜 布 其

## Abstract

“Andai” is currently the most famous ethnic dance in the HureQi area of inner Mongolia, China. The connection with religion old times is deep, in which the ceremonial aspects of “Andai” centers on song and dance, and it once was frequently carried out. In the “Andai” songs, Musical Dialogue assumed an important position. However in the current version of “Andai”, called “New Andai”, dance has become a central feature, and therefore the Musical Dialogue has died out. It is thought that the effects of the political regulations, the social environment, and the evolution of religious sentiments in which “Andai” Musical Dialogue was born have become the environment in which “Andai” musical dialogue has been lost.

キーワード……内モンゴル アンダイ 掛け合い歌

## 1. はじめに

「アンダイ (Andai)」は、中国内モンゴル自治区フレイホショー(Hure Hoshoo)<sup>1)</sup>地域で行われている最も有名な舞踊である。しかし、現在、一般に知られている「アンダイ」と伝統的な「アンダイ」には大きな差が見られる。「アンダイ」については、チゲチ他(1984)、小長谷有紀(1992)、呼格吉楽図(1997)、那琴双和爾(2001)、巴・蘇和(2009)、博特楽図(2009)、薩如拉主編(2012)などの研究がある。これらの文献によれば、伝統的な「アンダイ」は一つの儀式を核として行われ、そこでは歌うことは不可欠であった。また、記録された歌詞の中には「掛け合い歌」が多数見られる。「掛け合い歌」とは、二人または二組の人が問いと答えの形式で一定の旋律に合わせ、即興或は既成の歌詞を取り入れながら即座に歌い合う歌のことである。しかし、現在行われている「アンダイ」では、踊りは盛んに踊られるが、伝統的な「アンダイ」のような儀式性は見られず、歌は踊りのためのものになっている。これに伴い、「掛け合い歌」も消滅した。

本研究では、伝統的な「アンダイ」を「伝統アンダイ」、現在行われている「アンダイ」を「新アンダイ」と区別して考察する。それぞれの世界観や構造を明らかにし、歴史的な変遷を加味しつつ「掛け合い歌」の消滅の要因を明らかにする。

まず、先行研究を基に、「伝統アンダイ」の世界観と構造及び「掛け合い歌」の存在を明らかにする。次に、2011年と2014年に行われた現地調査の記録<sup>2)</sup>を中心に、「新アンダイ」の世界観と構造及び「掛け合い歌」の有無を明らかにする。最後に、「伝統アンダイ」と「新アンダイ」を比較し、「アンダイ」の変遷を加味しながら「掛け合い歌」の消滅の要因を明らかにする。

## 2. 「アンダイ」とは

「アンダイ」とは何かについて、多種の説がある。また、「伝統アンダイ」と「新アンダイ」によって、その定義も異なっている。「伝統アンダイ」の場合、それは病気の名前、病気の治療方法、人の名前<sup>3)</sup>、悪魔<sup>4)</sup>の名前、歌謡舞踊形式であるといったように様々な説がある。一方、現在の人々は、集団で踊る踊りであると捉える人が多い。これは「アンダイ」が時代によって人々に異なる形で知られてきたためだと考えられる。以下「伝統アンダイ」と「新アンダイ」それぞれの世界観と構造を明らかにし、時代変遷における「アンダイ」の違いを記述する。

### 2.1 「伝統アンダイ」

「伝統アンダイ」がどのように行われていたかについての映像は残っていないが、文字的な記録として詳しく書かれたものには、チゲチ他(1984)の『アンダイ』、那琴双和爾(2005)の『アンダイ文化研究』がある。これらを基に記述する。

#### 2.1.1 「伝統アンダイ」の種類

「伝統アンダイ」は行う目的により、病気を治すための「治病アンダイ」、雨乞いをするための「雨乞いアンダイ」、楽しむための「娯楽アンダイ」の三つに分けられる。

##### 1) 「治病アンダイ」

「治病アンダイ」とは若い女性の病気を治すことを目的として行う「アンダイ」のことである。これらは病状により「アダ アンダイ(Aad Andai)」と「オログ アンダイ(Urug Andai)」に二分される。前者の病状は、狂人のように走ったり、泣いたりする特徴があり、悪霊の作為が病気の原因であると言われる。それに対して、後者は、食欲がなく、静かで無口になり、次第に無気力になっていく特徴があり、精神的な要素が病気の原因であると言われる。

「治病アンダイ」では、儀式が重要で、流れが複雑である。病気の様子や家族の希望によって「大アンダイ」と「小アンダイ」に二分される。「小アンダイ」は軽い病気に対して、室内で行われ、歌う日数が短い。「大アンダイ」は重い病気に対して屋外で行われ、行う日数が長い。前者の流れは後者の流れに含まれている。「大アンダイ」の流れは以下ようになる。

①「アンダイ病」の確認。「アンダイ病」であるかどうかをシャーマンの占いによって確認す

る。確認した後、家族が親戚と相談し、「アンダイを歌う」かどうかを決める。

②「アンダイ場」を作る。村のはずれに直径が 50mほどの円を作り、真ん中にナイジム(牛車の竿や高い木など)を立てて置く。病人の家族が有名な「アンダイ」の歌い手二人と歌が上手で動作も素早い若い男性 2~3 人を要請する。

③「アンダイ チョチョーフ(Chochooh: 嚇すの意味)」。室内でシャーマンが病人に対して行う儀式。人や病状によって日数が異なる。

④「アンダイ ウドゲーフ(Udgeeh: 扇動するという意味)」。病人を「アンダイ場」に出すため、シャーマンが室内で誘発し、他の人は「アンダイ場」にて雰囲気盛り上げる。

⑤「アンダイ グルデーフ(Gurdeeh: なすりつけるという意味)」。病人が「アンダイ場」に出たら、動きの素早い若い男性が鈴のついた鞭を持って病人の前に走り出る。病人は鈴の音に従って動き始める。この際、歌い手は病気になった原因などを探る歌詞を歌い出す。

⑥「アンダイ トシャーフ(Tushaah: 手渡すという意味)」。二グループの歌い手が交替で歌う。

⑦「アンダイ ボリヤーフ(Buliyah: 奪うという意味)」。参加する人数が多くなり、「アンダイ場」に入りきれない場合、もう一つの臨時的な「アンダイ場」を作る。二つの「アンダイ場」の人がそれぞれ病人を自分の「アンダイ場」に連れていこうとし、そのための歌と踊りの合戦が行われる。「掛け合い歌」はこの場面で盛んに歌われると予想される。

⑧「アルタン フレー ショルゴーラフ(Altan Huree Shorgoolah)」。踊り手や歌い手が手を繋いで、大きな円を作る。病人は鈴のついた鞭を持った男性を後ろから追う。この時、繋いでいる手の下を通して走る。

⑨「アンダイ ガルガーフ(Gargaah: アンダイを出すという意味)」。 「アンダイ場」から少し離れたところに「門」を作り、その反対側に「身代わり」と「家」をおく。病人は「門」を出て「身代わり」と「家」を踏み倒していく。シャーマンは、これらを倒した後の病人の姿勢により「アンダイ」の成功・失敗を判断する。成功の場合、病人の夫または家族が病人を背負って帰る。失敗の場合、成功するまで倒す行為を繰り返す。

「アンダイ」を行う際に歌われていた歌は、那琴双和爾(2001)、チゲチ他(1984)、博特楽図(2009)などの文献にそれぞれ 68 曲、57 曲、75 曲記録されている。それらの曲名を【表 1】の通りにまとめた(「」の中は曲名、①②③の数字は同名異曲の数と種類)。

これらは、「伝統アンダイ」に参加したことのある、或は歌い手として要請された人々にインタビューをした研究者の記録である。しかし、「アンダイ」の流れのどの部分でどの歌が歌われるかは、はっきり書かれていない。「アンダイ」の行われていた様子、歌の役割を知るためには「アンダイ」の流れにおける歌の位置づけを明確にする必要がある。【表 2】では、記録された歌詞の内容から「治病アンダイ」の流れに合わせて、どの歌がどの部分で歌われるかを予想し、整理した。

【表1】 「アンダイ」の歌

那琴双和爾(2001)		デゲテ他(1984)		博特楽団(2009)	
曲名	和訳	曲名	和訳	曲名	和訳
1) 「eh aya」	母曲(始めの曲)			「eh aya」	母曲(始めの曲)
2) 「elee andai」	エレ(悪い物)アンダイ	「elee andai」	エレ(悪い物)アンダイ	「elee andai」①②	エレ(悪い物)アンダイ
3) 「chochooh」	囁す	「chochoh ayalg」	囁す曲	「chochooh」	囁す
4) 「asoo」①②	間う	「asoo ayalg」	間う油	「asoo」①②	間う
5) 「yudhaah」	誘発する			「yudhaah」	誘発する
6) 「uyaruulah」	感動させる			「uyaruulah」	感動させる
7) 「tangarig abah」	替わせる			「tangarig abah」	替わせる
8) 「hugjeh」①②	盛り上げさせる	「hugjeh」①②	盛り上げさせる	「hugjeh」①②	盛り上げさせる
9) 「magtal」①②	賛美する	「magtal」	賛美する	「magtal」①②	賛美する
10) 「uriih」①②	要請する	「uriih」	要請する	「uriih」①②	要請する
11) 「doodah」	呼ぶ	「doodah」①②	呼ぶ	「doodah」	呼ぶ
12) 「yih andai」	大アンダイ	「yeh andai」①②	大アンダイ	「yih andai」	大アンダイ
13) 「debseh aya」	踏む曲			「debseh aya」	踏む曲
14) 「udgeh」①②	肩動かす			「udgeh」①②	肩動かす
15) 「mongolin」	モンゴルジン(地名)	「mongolin」	モンゴルジン(地名)	「mongolin」	モンゴルジン(地名)
16) 「mongolin eligshara」	モンゴルジン(地名) エルグシレー(人名)	「shin eligshara」(mongolin)	新エルグシレー(人名)(モンゴルジン地名)	「mongolin eligshara」	モンゴルジン(地名) エルグシレー(人名)
17) 「choohor」	斑点	「chohor」	斑点	「choohor」①②③④	斑点
18) 「chootal」①②	有名な	「chootal」①②③④	有名な	「chootal」①②	有名な
19) 「gurdeeh aya」	擦りつける	「gurdeeh」	擦りつける	「gurdeeh aya」	擦りつける
20) 「hoorhui」①②	可哀そう	「hoorhui」①②③	可哀そう	「hoorhui」①②	可哀そう
21) 「jegur naigor」①②	ジュグルネーグル(動き)	「jegur naigor」	ジュグルネーグル(動き)	「jegur naigor」①②	ジュグルネーグル(動き)
22) 「hejyurai」①②	ヘジュウレイ(人名)	「hejyurai」①②	ヘジュウレイ(人名)	「hejyurai」①②	ヘジュウレイ(人名)
23) 「a boore」	ア〜ちゃん	「boore」①②	ア〜ちゃん	「a boore」	ア〜ちゃん
24) 「sergeeh」①②	醒ます	「sergeeh」	醒ます	「sergeeh」①②	醒ます
25) 「bolalchah」	奪い合う			「bolalchah」	奪い合う
26) 「a jqaid scns」	ア〜お客様聴いて			「a jqaid scns」	ア〜お客様聴いて
27) 「a dooch」	ア〜歌い手	「a dooch」	ア〜歌い手	「a dooch」	ア〜歌い手
28) 「chai oolgaah aya」	お茶を飲ませる歌	「chai oolgaah aya」	お茶を飲ませる歌	「chai oolgaah aya」	お茶を飲ませる歌
29) 「eiseh bumburai」①②③	仲良くなるブンブレイ			「eiseh bumburai」①②③	仲良くなるブンブレイ
30) 「buur hiye」	ブウルヒーイェー(可笑がる)			「buur hiye」	ブウルヒーイェー(可笑がる)
31) 「hcngcr」	親愛な	「hcngcr」	親愛な	「hcngcr」	親愛な
32) 「hureeleng」	お庭	「hureeleng」	お庭	「hureeleng」	お庭
33) 「hejihye」	いつするか	「hejihye」①②	いつするか	「hejihye」	いつするか
34) 「hejiye hiye」	いつやるか			「hejiye hiye」	いつやるか
35) 「hejiye」	いつ	「hejiye」①②	いつ	「hejiye」	いつ
36) 「dantai」	ダンタイ(伝説の人名)	「dantai」	ダンタイ(伝説の人名)	「dantai」	ダンタイ(伝説の人名)
37) 「chcr hejiye」	短ヘジイェ			「chcr hejiye」	短ヘジイェ
38) 「uneren」	本当だ			「uneren」	本当だ
39) 「jannaah」①②	道を歩く	「jannaah」	道を歩く	「jannaah」①②	道を歩く
40) 「bumburai」	ブンブレイ(人名)	「bumburai」	ブンブレイ(人名)	「bumburai」①②③	ブンブレイ(人名)
41) 「huree elegshara」	フレ(地名)エルグシレー	「eligshara(huree)」①②	エルグシレー(フレ)	「huree elegshara」	フレ(地名)エルグシレー
42) 「josin gcc」①②③	ジョシンゴール(川名)	「josin gcc」①②③	ジョシンゴール(川名)	「josin gcc」①②③	ジョシンゴール(川名)
43) 「li jin sai」	リージンセイ(人名)	「li jin sai」①②	リージンセイ(人名)	「li jin sai」	リージンセイ(人名)
44) 「eyeleng」①②	調子に合わせる	「eyeleng」①②	調子に合わせる	「eyeleng」①②	調子に合わせる
45) 「sorgaah」	教育する			「sorgaah」	教育する
46) 「altan shorgool」	潜り込む			「altan shorgool」	潜り込む
47) 「shaar shchoohai」	シャラ ショボーハイ(鳥名)			「shaar shchoohai」	シャラ ショボーハイ(鳥名)
48) 「jolig amiaah」	身代わりを生かせる			「jolig amiaah」	身代わりを生かせる
49) 「aad andai」	アダ(悪魔)アンダイ			「aad andai」	アダ(悪魔)アンダイ
50) 「hurgeeh」	送る	「hurgeeh」	送る	「hurgeeh」	送る
51) 「mcrdoolah」	見送りする	「mcrdoolah」	見送りする	「mcrdoolah」	見送りする
52) 「andai gargaah」	アンダイを出す			「andai gargaah」	アンダイを出す
53) 「nere ugei」	無名				
54) 「nere ugei」	無名			「baga andai」	小アンダイ
55) 「nere ugei」	無名				
56) 「bumbura(フレ)」	ブンブレイ(人名)				
57) 「shiyantoor」	シャントール(人名)				
58) 「mongolin bumburai」	モンゴルジンブンブレイ				
59) 「je yab jeger yab」	じゃ 歩け 一緒に歩いて				
		「buhuisgij debseye」	踏みましよう		

## 2) 「雨乞いアンダイ」

雨乞いを目的とした「雨乞いアンダイ」は、祀る対象と方法によって「井戸を祀るアンダイ」、「龍王を祀るアンダイ」、「一本の高い木を祀るアンダイ」の三つに分けられる。

### ① 「井戸を祀るアンダイ」

村の井戸口にきれいな木を横に置き、真っ赤な雄鳥の頭を下に向けて縛る。一人の歌い手が井戸口に布を振って立つ。大勢の人が手を繋ぎ、歌い手のリズムに合わせて左に回り、足踏みをして踊る。始めは「雨が降ってないので苦しい」という状況の歌詞を作って歌い、その後、神様を笑わせるために面白い歌詞を作って歌う。女性は見てもよいが、歌ってはいけない。長いものは五日間、多くは三日間、毎日の昼か夜に歌う。

【表 2】 「治病アンダイ」の流れとそれに合わせた歌

治病アンダイの流れ	「アンダイ」の歌
① 「アンダイ病」を確認	
② アンダイ場を作る	主に表1の 3)4)5)6)7)8)を歌う。シャーマンから病人ごして、病気の原因を
③ アンダイ チョチョーフ	問う、「アンダイ」場に出ることを誘発する、病人を賛美する。
④ アンダイ ウドゥゲーフ	病人を「アンダイ」場に連れ出して一緒に楽しむという内容で歌う。【表1】の 8)10)13)14)15)17)18)23)31)42)53)59)など盛り上がる雰囲気のある歌を歌う。ここでは掛け合い歌が歌われていたと予想される。
⑤ アンダイ ガルデーフ	病人にものを食べさせたり、歌い手や踊り子を休憩させるため、落ち着いた曲に合わせて歌い踊る。面白く、笑わせる歌詞を作って歌う。表1の 1)2)16)22)28)32)39)などの曲を中心に歌い、掛け合い歌も歌われたと予想される。
⑥ アンダイ トシャーフ	ここから病人の様子がよくなってきて、娯楽的なアンダイになってくる。また、
⑦ アンダイ ボリヤーフ	ここでは「アンダイ」の場を等うための歌と踊りの合戦なども行われる。歌う
⑧ アルダン フレー	曲は表1の 3)7)47)48)50)51)の儀々の決まった歌以外、他の曲を現場の様子に合わせて自由に歌い、掛け合い歌が盛んに行われたと考えられる。
シヨルゴーフ	これは最後の部分となり、主に表1の 44)45)47)48)50)51)などの曲を歌う。
⑨ アンダイ ガルゲーフ	この中にも掛け合い歌が多少歌われていたと予想できる。

② 「龍王を祀るアンダイ」

古い井戸、或は丸い入れ物に水を半分以上入れ、中にカエルを二匹入れる。みんなでその周りを足踏みのリズムに合わせて踊りながら回る。始めは雨乞いの内容で歌詞を作って歌い、その後、面白い内容の歌詞を作って歌う。主に夜間に歌い、長くて五日間か七日間歌う。

③ 「一本の高い木を祀るアンダイ」

旧暦 5 月 13 日前後三日間に行われる。当日は羊を殺して、豊富な知識を持ち、言語表現が巧みな村の老人を「チャガン ウブグン(Chagan ebugen: 白いお爺様)」と呼び、その木の下に座らせ、羊と賛美の詩を作って奉納した後、全員が礼をする。その後は「チャガン ウブグン」の上から水をかけ、みんなで会話を楽しむ。夜は若者がそこに歌と踊りを加える。

【表 1】の歌の内容から見れば、「雨乞いアンダイ」では 18)「Chootai」①②③④、35)「Hejiye」①②③、42)「Josin Gccl」①②③、22)「Hejuurai」、54)「Ner ugei」などの歌が多く歌われると予想される。

3) 「娯楽アンダイ」

これは、いつでもどこでも、仕事の休憩中など、暇のある時に、人が集まったら歌いはじめる「アンダイ」である。歌詞の内容は自由で、幅広い。「治病アンダイ」で歌われる旋律に即興的に歌詞をつけて歌うものと思われる。

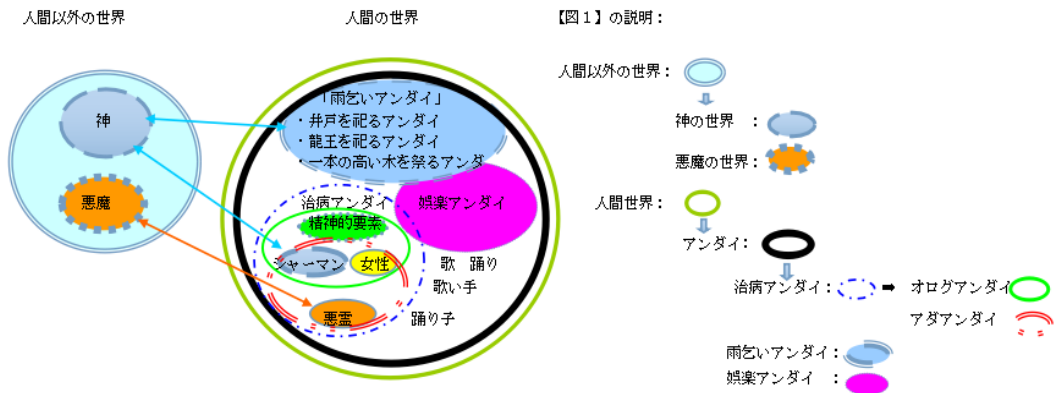
2.1.2 「伝統アンダイ」の世界観

以上、「アンダイ」の種類毎の流れや方法、歌の位置づけについてまとめた。三種類の「ア

内モンゴル「アンダイ」の変遷から見た「掛け合い歌」の消滅（娜布其）

ンダイ」はそれぞれ目的が異なる。しかし、歌と踊りが行われる点では共通している。また、「治病アンダイ」と「雨乞いアンダイ」においては、人間の世界と人間以外の世界との交信があり、宗教との関わりが深い。「娯楽アンダイ」は、神や悪魔の世界と関わらず、単なる人間の楽しみである。このように、「伝統アンダイ」は、ある目的の基に「宗教的儀式、歌、踊り」が一体となり、「シャーマン、歌い手、踊り手」の相互関係の上で創出されている。このような「伝統アンダイ」の世界観は【図1】のようにまとめることができる。

【図1】 「伝統アンダイ」の世界観



### 2.1.3 「伝統アンダイ」における「掛け合い歌」

「伝統アンダイ」において、「掛け合い歌」は重要な位置を占めていた。チゲチ他(1984)では、「掛け合い歌」についての細かな記録はない。しかし、那琴双和爾(2001)と博特楽図(2009)においては、それぞれ24曲と23曲の「掛け合い歌」を見ることができる。これらを【表3】にまとめた。

【表3】 「アンダイ」における掛け合い

【表3】の「掛け合い歌」が、「伝統アンダイ」のどの部分に歌われていたかということについては、明確ではない。【表2】の流れを見ると、「治病アンダイ」の④～⑨には【表3】の掛け合いが存在していたものと思われる。③までは、病人の調子に合わせて、病気の原因を聞いたり、「アンダイ」場に出ることを誘ったりする。④からは病人が「アンダイ場」

那琴双和爾(2001)			「博特楽図」(2009)		
曲名	和訳		曲名	和訳	
8) 「hugjieh」②	盛り上がらせる		「hugjieh」②	盛り上がらせる	
10) 「uriih」②	要請する		「uriih」②	要請する	
11) 「doodah」	呼ぶ		「doodah」	呼ぶ	
14) 「udgeh」①②	扇動する		「udgeh」①②	扇動する	
18) 「chootai」①②	有名な		「chootai」①②	有名な	
20) 「huurhui」①	可哀そう		「huurhui」①	可哀そう	
21) 「jegur naigor」①②	ジュグルネーグル		「jegur naigor」①②	ジュグルネーグル	
22) 「hejyurai」①②	ヘジュレー		「hejyurai」①②	ヘジュレー	
24) 「sergeeh」①②	醒ます		「sergeeh」①②	醒ます	
25) 「bolialchah」	奪う		「bolialchah」	奪う	
28) 「a joqid snos」	ア～お客様聞いてくれ		「a joqid snos」	ア～お客様聞いてくれ	
27) 「a dooch」	ア～歌い手		「a dooch」	ア～歌い手	
29) 「feiseh bumburai」①②	仲良くなるブンブレイ		「feiseh bumburai」①	仲良くなるブンブレイ	
30) 「buur hiye」	ブカールヒーイェ		「buur hiye」	ブカールヒーイェ	
37) 「cher hejiye」	短ヘジイェ		「cher hejiye」	短ヘジイェ	
39) 「jamnaah」②	道を歩く		「jamnaah」②	道を歩く	
48) 「faltan shorgool」	潜り込む		「faltan shorgool」	潜り込む	
51) 「merdoolah」	見送りする		「merdoolah」	見送りする	

に入り、次第に体調が回復していく。その際、雰囲気盛り上げ、病人を喜ばせるために「掛け合い歌」が行われる。ここからの歌は病人に対して歌われるだけでなく、参加者が楽しむためにも歌われる。歌の選曲や歌詞の内容は自由になり、掛け合いが盛んに行われていたと考えられる。これが⑨まで続く。

「雨乞いアンダイ」の掛け合いが行われていたことについては、那琴双和爾(2005)が、1934年フリーホショーのハラエルギ村における「龍王を祀るアンダイ」で行った即興の「掛け合い歌」を記録している。これによると、掛け合いは二つの地域の人々の喧嘩になるほどの激しいものだった。

「娯楽アンダイ」においても「掛け合い歌」が確認できる。チゲチ他では「夏の夜、人々が田仕事から帰る際『アンダイ』を歌い、こちらのグループが…中略…と歌ったら、あちらのグループが…中略…と掛けてくる」(1984: 37)と記録されている。

このように、三種類の「アンダイ」すべてにおいて「掛け合い歌」が行われていた。しかし、中心は「治病アンダイ」であり、ここでの歌が他の二種類の「アンダイ」へ広がったものと考えられる。

次に【表3】の「掛け合い歌」の分析をした。結果は【表4】の通りである。

【表4】「アンダイ」における「掛け合い歌」の分析

曲名	歌詞の構造	掛け合い関係	内容	歌詞の行数、掛け合い回数	歌詞の字数	旋律	掛声の有無と旋律の位置
8) [hugijeh] ⑨	上下句	問いと答えの関係	アンダイを歌う日にちを決める	4行 8回の掛け合い	玉に3333	2/4拍子、全8小節	有、7、8小節
10) furiib] ⑨	上下句	内容の続き	アンダイ場に来るように誘う	2行 6回の掛け合い	3か33	2/4拍子、全8小節	有、7、8小節
11) [doodah] ⑨	上下句	並列関係	アンダイ場と病人の賛美	2行 6回の掛け合い	玉に44	2/4拍子、全11小節	有、3~5、10、11小節
14) [udgeh] ①	上下句	反論関係	相手の歌った内容を反論する	2行 4回の掛け合い	玉に44	2/4拍子、全8小節	有、7、8小節
14) [udgeh] ②	上下句	並列関係	踊ることを勧め、病人に病気になる理由を聞く	2行 11回の掛け合い	33か44	2/4拍子、全8小節	有、7、8小節
18) [chontai] ①	上下句	並列関係	治病にはうまい歌い手よりも恋人が効果的である	4行 3回の掛け合い	玉に5757	2/4拍子、全10小節	有、5~8、13~16小節
18) [chontai] ②	上下句	内容の続き	体調が悪いけど動かないとだめ、動けば治る	2行 4回の掛け合い	玉に44	2/4拍子、全14小節	有、1、2、11~14小節
20) [hurhu] ①	上下句	並列関係	皆寝強った、病人動いた、病気が治る	2行 6回の掛け合い	玉に33	2/4拍子、全8小節	有、3、4、7、8小節
21) [jesur naisor] ①	上下句	並列関係	美人がいる女性は少ない	2行 2回の掛け合い	33か43	2/4拍子、全8小節	有、5~8小節
21) [jesur naisor] ②	上下句	並列関係	踊り子を賛美し、病人の走りの速さを比喩する	2行 4回の掛け合い	玉に43	2/4拍子、全8小節	有、5~8小節
22) [hejyuraj] ①	上下句	問いと答えの関係	アンダイ場を招いた手について	4行 2回の掛け合い	全部3333	2/4拍子、全10小節	有、5~10小節
22) [hejyuraj] ②	上下句	並列関係	女性は嫁に行かなければならない	2行 4回の掛け合い	33か43	2/4拍子、全10小節	有、5~11小節
24) [seerreh] ①	上下句	反論関係	自分だけを考えず、病人のために歌ってよ	2行 4回の掛け合い	33か44	2/4拍子、全8小節	有、3、4、7、8小節
24) [seerreh] ②	上下句	並列関係	病人が走った、病気が絶対治る	2行 3回の掛け合い	43か33	2/4拍子、全8小節	有、3、4、7、8小節
25) [holialchah] ①	上下句	問いと答えの関係	モンゴル各地地の王様の経、病人の動きの良さ	4行 6回の掛け合い	玉に4444	2/4拍子、全10小節	有、5、6、9、10小節
26) [a joid sence] ①	上下句	並列関係	病人に対する可愛がり、歌い手と参加者の賛美	2行 8回の掛け合い	玉に44	2/4拍子、全8小節	有、3、4、7、8小節
27) [a dooch] ①	上下句	並列関係	自分の歌い手が他の歌い手に勝ったと賛美する	2行 6回の掛け合い	玉に43	2/4拍子、全5小節	有、3小節
29) [feish humberai] ①	上下句	内容の続き	(病人の体にいる霊に対して)仲良く話してみよう	2行 4回の掛け合い	23か43	2/4拍子、全8小節	有、3、4、7、8小節
29) [feish humberai] ②	上下句	並列関係	参観するラマを軽蔑し、病気が治り、来しもう	2行 5回の掛け合い	玉に33	2/4拍子、全8小節	有、3、4、7、8小節
30) [huur hivel] ①	上下句	問いと答えの関係	病気が治る予言、歌い手同士の自慢合戦	2行 2回の掛け合い	全部33	2/4拍子、全8小節	有、3、4、7、8小節
37) [cher hejive] ①	上下句	問いと答えの関係	病人の踊りを賛美し、参観のラマを軽蔑する	2行 4回の掛け合い	33か34	2/4拍子、全10小節	有、5~10小節
38) [jaanah] ②	上下句	並列関係	病気が治り、彼女の霊が戻ってきている	2行 6回の掛け合い	3か333	不明	有、前半の後ろの部分
48) [aitan shorzool] ①	上下句	並列関係	悪魔と病人の関係、病人と恋人の関係を歌う	2行 5回の掛け合い	全部33	2/4拍子、全8小節	有、3、4、7、8小節
51) [weroolah] ①	上下句	内容の続き	悪魔、悪魔を追い出す、送る	2行 4回の掛け合い	44か43	不明、三部分	有、第三部分

歌詞は上下句形式となっており、その多くは2行で構成される。行毎の字数は3または4字が多く、2、5、7の字数も少数見られる。旋律の多くは8小節で構成される。24曲の内、39)と51)の拍子が不明であるが、それ以外はすべて2/4拍子となっている。掛け合いの関係は「問いと答え」、「内容の継続」、「並列」、「反論」の四つに分けられる。その対象は、病人に対して歌うもの、相手に対して歌うもの、病人の体に入った悪魔に対して歌うもの、「アンダイ」に参加した人のことを歌うものなどに分けることができる。一般的に「掛け合い歌」が相

内モンゴル「アンダイ」の変遷から見た「掛け合い歌」の消滅（娜布其）

手すなわち人に対して歌うものであることを考えると、この点が他の「掛け合い歌」<sup>5)</sup>と異なる特徴である。もう一点、掛声の存在が指摘できる。これも「伝統アンダイ」における「掛け合い歌」の特徴となっている。これらの事例を例1と例2に示した。なおこの際、二人の歌い手をA、Bと分けている。楽譜は文献の数字譜を五線譜にした。歌詞と楽譜の四角の中は掛声である。

**Hugjeeh**

例1. 【表3】【表4】の  
8) 「Hugjeh」②  
那琴双和爾 2001 : 211)



A : bolagin oson ne uyilchegn ni hedui boi boljotai nagadoman hechinen suner doolna?  
泉の 波は何層か 約束する遊びを いく晩歌うか

B : bolagin oson ne uyilchegn ni yisu baina beljetai nagadoman yisu gi hoyor nogolya  
泉の 波は九層だ 約束する遊びを 9かける2晩歌おう

yiluu gorbā nemeye (9 × 2 = 18)  
その上にプラス3にしよう (18 + 3 = 21 日歌うという意味)

**Duudah**

例2. 【表3】【表4】の  
11) 「Doodah」  
那琴双和爾 2001 : 221)



A : ugad ugad hanosh ugei a ha hu hu a ha hu ujumin olaan arihia a ha hu hui  
たくさん飲んでも飲みたくなる アハホホアハホ 葡萄の赤い酒 アハホホイ

B : uchiraj naadad salosh ugei a ha hu hu a ha ho andai yin yihe menne changsa a ha hu hui  
何度あって遊んでも満足しない アハホホアハホ 私たちのアンダイ場だ アハホホイ

## 2.2 「新アンダイ」

「新アンダイ」というのは、現在、内モンゴルで行われている「アンダイ」のことをいう。ここでは、2011年と2014年の調査記録を基に記述する。現在の内モンゴル人にとって「アンダイ」はフォークダンスとして知られている。「伝統アンダイ」では、「アンダイを歌う」という言いかたをしたが、現在の人々は「アンダイを踊る」と言うようになっている。

### 2.2.1 「新アンダイ」の種類

「新アンダイ」は、その形式によって「フォークダンス・アンダイ」、「アンダイ舞劇」、「アンダイ体操」というように三分類される。

#### 1) 「フォークダンス・アンダイ」

主に民族や地域のアイデンティティーを示し、見せる目的で、民間芸術団や専門的な芸術団



によって踊られる。

「フォークダンス・アンダイ」の始まりは中華人民共和国が建立した後のことである。特に 1958 年から 1960 年前後は、五百人、千人の大規模の「アンダイ踊り」が次々と行われ、これが「新アンダイ」の始まりとなるとともに、その広がり大きな影響を与えた(薩如拉 2012 : 62~63)。現在、内モンゴル自治区において、「フォークダンス・アンダイ」は市、村に関わらず、頻繁に踊られている。

踊り方としては群舞式であり、多くは 4 人以上の男女同人数で踊られる。曲は、「伝統アンダイ」の中から、いくつかの旋律を好きに組み合わせる。踊りは、「伝統アンダイ」の基本的な動きを入れつつ、新しい動きを入れる。音楽は歌詞を伴わないことが多い。踊りの気持ちを表すために歌詞をつける場合もある。曲も歌詞もあらかじめ決められている。また、一人で歌うか、二人で歌うか、全員で歌うかについても同様である。

「フォークダンス・アンダイ」の流れは「伝統アンダイ」のように複雑ではない。踊る団体の名前を伝えた後、音楽が流れ始め、踊る人たちが舞台上がって踊りが始まる。多くは 5 ~ 10 分程度踊り、最後に舞台から降りる。

## 2) 「アンダイ舞劇」

「アンダイ舞劇」は「アンダイ」の伝説の中から典型的な部分を劇化した作品である。「アンダイ」を伝承、発展させるという目的もあり、専門芸術団による作品と民間芸術団による作品が存在する。主に大規模な舞台で演じられ、参加人数が多く、踊りの時間も比較的長い。ここでは専門芸術団の作品として、2012 年 9 月に行われた「中国内モンゴル高原文化祭」に向けて作られた「アンダイ魂」という作品を紹介する。舞劇は全四幕から構成され、80 名以上の人々が参加した。上演時間は一時間程度である。

劇の冒頭部は、モンゴルの原始時代の様子を表す。第一幕では、自然災害、干ばつが起こり、人々の生活は困窮し、彼等は「神の樹」である一本の木の下で雨乞いの儀式を行う。すると、たちまち天地が轟き雨となる。その結果、自然は美しく再生し、人々は幸せな生活を送る。そしてそこではブリグド(Burguud)とブンブレイ(Bumburai)の男女が楽しく暮らしている。第二幕では、外部からの侵略者があり、ブリグドは戦いに行き負傷する。朦朧とした意識の中、母親とブンブレイへの思いが生命を支え、彼は生き延びる。その後、大雪になり、ブンブレイは雪の中ブリグドを探しに出て、病気になってしまう。第三幕では、ブリグドが帰還し、病気のブンブレイに会う。悲しい思いの中で友人たちと歌い踊ると、彼女の病気が治る。第四幕では、村のため、ブリグドが再び戦場へ行き、最後に勝利をつかむ。

劇中すべての内容は踊りで表現され、歌や解説は見られない。音楽は「伝統アンダイ」の曲を基に、新たな要素を入れて作られたものである。

民間芸術団は主に市や村を中心に活動を行い、人数は 10 人程度である。その代表的な団体の作品としては、「アンダイ」の生まれた場所と言われるフレーホショー下養畜牧(ドル・ヤン

内モンゴル「アンダイ」の変遷から見た「掛け合い歌」の消滅（娜布其）

シブ：Dooru Yangshib)村の「オリジナル・アンダイ団」による「オリジナル・アンダイ」がある。これは、「アンダイ」の由来に関わる伝説の一部を劇化したもので、「伝統アンダイ」の曲からいくつかの曲を繋げてCDを作り、それに合わせて踊る10分程度の作品である【写真1】。概要は以下の通りである。

父親が病気にかかった娘を牛車に乗せて医者を探しに出てきた。プレーホショーに入ると、牛車が川の泥の中にはまってしまった。子牛を放牧していた近くの子供たちに手伝ってもらい、牛車を泥から出した。その際一人の子が自分たちの村に良いシャーマンがいると伝えた。それで父親はシャーマンを呼び、病気を治すように依頼した。村の人々も一緒に歌い踊ると、娘の病気が治った。

この「オリジナル・アンダイ」も「アンダイ魂」と同様に、歌は歌われず、踊りだけである。

「アンダイ舞劇」は「アンダイ」の由来を主題にした舞踊であるが、「伝統アンダイ」ではシャーマンと歌手が主体となり、踊りはそれらに従属する。それに比べて、「アンダイ舞劇」では踊ることが中心となる。そこでは「伝統アンダイ」で見られたシャーマンの儀式、作法、「掛け合い歌」を含めた歌う行為を見ることはできない。

### 3) 「アンダイ体操」

内モンゴル通遼市のモンゴル族学校では2006年から体操の時間に「アンダイ体操」を実施している。多くの学校では年に一度「アンダイ体操会」を行う【写真2】<sup>6)</sup>。2013年9月28日、プレーホショーでは、10カ校の小中学校3000名による大規模の「アンダイ体操大会」が行われた。「アンダイ体操」の曲はその場で自由に選択できるものではなく、あらかじめ決められた曲を録音して使用しており、長さは6分程度である。シャーマンは登場せず、儀式はない。歌は録音されたものしか歌われていない。従って「掛け合い歌」も見られない。踊りは「アンダイ」の由来や伝説とは直接関わらず、健康な体を作ることが目的である。生徒が体操場に並ぶと、スピーカーから曲が流れ、それに合わせて踊り、終了後解散するという流れである。



【写真1】 「オリジナル・アンダイ」  
（撮影：娜布其 2011）

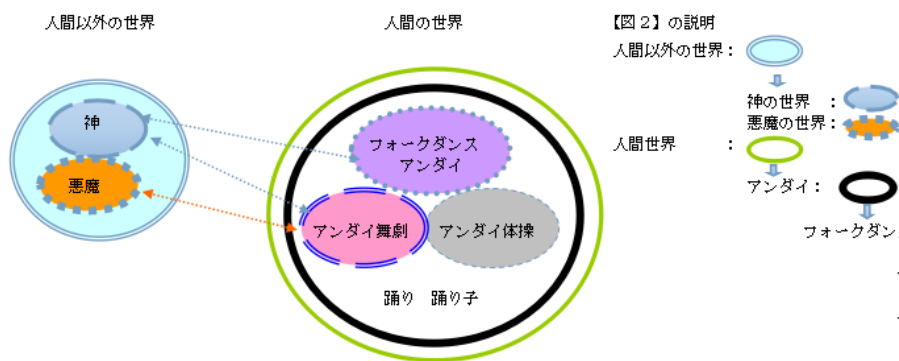


【写真2】 アンダイ体操  
（撮影：娜布其 2014）

## 2.2.2 「新アンダイ」の世界観と「掛け合い歌」

「新アンダイ」はフォークダンス、舞劇、体操の形式で発展しており、「伝統アンダイ」と比べて、世界観の変化がみられる。「新アンダイ」の主題は信仰、病気ではなく、民族や地域のアイデンティティを示すためのもの、オリジナル作品として見せるためのもの、踊りを通して健康的な体を作るためのものとして行われている。「フォークダンス・アンダイ」と「アンダイ舞劇」には人間の世界と人間以外の世界とのやりとりが演じられる。しかし、それは伝統アンダイのようなやりとりではなく、表面的な真似ごとである。従って【図2】においては点線でその関係を示した。

【図2】 新アンダイの世界観



このように、「儀式、歌、踊り」が一体化した「伝統アンダイ」は、「新アンダイ」になると、宗教性がなくなり「儀式」は模倣され「歌」とともに「踊り」に従属するものとなり、本来の役割を失った。そのため、歌の即興性も失われ、「掛け合い歌」も必要とされなくなった。このような変化の過程で、「掛け合い歌」は完全に歌われなくなり、消滅した。

## 3. 「アンダイ」の変遷から見た「掛け合い歌」の消滅

これまで「伝統アンダイ」から「新アンダイ」までの変遷を見てきた。この過程において「掛け合い歌」は消滅している。最後に「アンダイ」の起源とその歴史的背景も探りつつ、消滅の要因を明らかにしたい。

### 3.1 「アンダイ」の起源

「アンダイ」は、いつ、どこで誕生したのであろうか。『中国少数民族音楽史』（冯光钰、袁炳昌 2007）においては、「アンダイ」は清代(清国)のモンゴル族の歌舞として分類されているが、それ以前では名前を確認することができない。従って「アンダイ」は清国成立（1636）

内モンゴル「アンダイ」の変遷から見た「掛け合い歌」の消滅（娜布其）

以降に生まれたものとして捉えられていると考えられる。

『蒙古族音楽史』の場合、「『アンダイ』はモンゴル族の伝統歌謡舞踊の一つで、清代の中期頃から内モンゴルの東地域のジルーム盟<sup>7)</sup>やジョオダ盟に広く伝わる」(呼格吉楽図 1997 : 847)と記されている。ここでの「アンダイ」の成立は、清代中期である。また、呼格吉楽図によると、「アンダイ」は、モンゴル族の人々が「一本の大きな木の下に集まって踊る」足踏み踊りから発展してきたとされている(1997 : 847~848)。

「アンダイ」の成立場所であるが、チゲチ他(1984)は、民間老人のインタビューや研究を通して、フレイホショーであると主張している。その理由は、「フレイホショー」ができる以前、その場所はモンゴル人の放牧地であり、ほとんど人が住んでいなかった。そのため「アンダイ」が生まれる可能性がないからだと述べる。彼は「アンダイ」の誕生を「フレイホショー」の成立した1633年以降としている。

「フレイホショー」はもともと荒涼な地であり、交通も不便で、人口が少なく、当初「マンショライフレイ(Manshyorai Huree)」として建立された際、内モンゴルの他の地域からラマや民衆を移住させて来たため、「チョグルラル(集まりの意味) イン フレイ(Choglaral yin Huree)」とも言われた。様々な地域から人々が集まったという意味を持つ。

「アンダイの故郷」と呼ばれる「フレイホショー」は、1633年チベットのアシンシリバ(Ashing Shirba)僧が当時の政府の許可を得て、現在の「フレイホショー」の中心地を区切って住み、それを「マンショライ(アシンシルバの法名)フレイ」と呼んだことに始まる。1646年、清政府が「マンショライフレイ」を政治と宗教が統一した意味の「シレートフレイジャサクラマインホショー(Shireet Huree Jasagto Lamin Hushuu)」と改名した。1931年、政教が分けられ、「フレイホショー」と呼ばれるようになった。

「フレイホショー」は清国の統治者に親しまれ、直接清の政府の所属とされ、…中略…特別な優遇を得ていた。「宗教の面から階級矛盾を緩和し、習慣、生活において自由状態を作った。…中略…法律によりシャーマンを禁止せず、ラマ教、シャーマンが共に存在する状態であった」。「ラマ教はお寺を中心に、町などの中心地域に集中的に存在し、シャーマンは田舎で庶民を占有していた。他の地域でシャーマンが禁止されると、彼らはフレイホショーという特別な地域に移住して生活するようになった」(薩茹拉 : 59)。

このように、「フレイホショー」に対する清政府からの制度が特別であったため、この地域にシャーマンが存在することができたのである。しかしながら、ラマ教は政権を持っていたため、シャーマンは権力者や裕福な人々から差別視されていたと考えられる。また、ここの人々は、様々な地域から移住してきたため、病気など困った時、互いに助け合おうとした。

このような環境の中で、人々がモンゴル族の伝統的な歌謡舞踊、生活経験、宗教やシャーマンの音楽を巧みに組み合わせ、社会環境に合わせて「アンダイ」を生み出したものと考えられる。「アンダイ」は「フレイホショー」の人々に四つの良さをもたらしていた。第一に、庶民

が病気など困った時にみんなで助け合うこと。第二に、モンゴル人の心に深く根ざした宗教につながるシャーマンを守ったこと。第三に、大勢で集まって交流し、楽しむ場を生み出したこと。第四に、民族の伝統的な歌謡舞踊文化を生かしたことである。

### 3.2 「アンダイ」の歴史的背景

「アンダイ」の変遷には、「フレーホショー」と当時の国である清国及び現在の中華人民共和国の歴史が深くかかわる。

清国は 1636 年～1912 年に存在した満族の作った国である。清国は、ラマ教によりモンゴル地域を支配しようとした。その際モンゴル族のシャーマンは政治の中心地域から追い出された。

清国が滅亡した後、1919 年 5 月 4 日の「五・四運動」の影響を受け、伝統文化は現代化を妨げるものと考えられ、消滅運動が行われた。「アンダイ」もその対象になった(薩如拉 2012 : 283)。さらに 1946 年～1953 年の間に行われた「土地改革活動」において、「アンダイ」は「封建迷信」として禁止された(薩如拉 2012 : 283～284)。

中華人民共和国は 1949 年に建国され現在まで続いている。建国後、内モンゴル自治区文化局では各地域の民間口伝文化収集活動を行い、フレーホショーの「アンダイ」を収集した。1958 年 12 月、フレーホショーのジョクチン村の芸術家エルデンバル(1932～1998)は、内モンゴルの芸術団と共に初めて「アンダイ」を首都北京の舞台上で演じた(薩如拉 2012 : 359)。その後、彼は「アンダイ」の七つの伝統的な動きを 30 種類に発展させ、これが広く伝わった(博特楽図 2009 : 5～6)。1960 年、内モンゴル自治区文化会がフレーホショーで開催された際、「フレーホショー」では、民間に存在してきた「アンダイ」を収集し、500 人の「アンダイ踊り」を行い、人々に注目された。その後、中国では、「フレーホショー」を「アンダイ文化の里」と言うようになった(博特楽図 2009 : 15)。

1966 年～1976 年の間に行われた「文化大革命」では「アンダイ」に多数の罪名がつけられ、「アンダイ」の曲を放送することも禁止された。この時期、「アンダイ」を歌う民間の歌手、ホールチ(Hoorchi)(物語りを語る人)や「アンダイ」の収集や発展に貢献した人々が糾弾された(薩如拉 2012 : 283～284)。2006 年には、国指定無形文化財となり、現在はダンス、劇、体操などとして発展している。これら「アンダイ」の歴史的背景は【図 3】のように示すことができる。

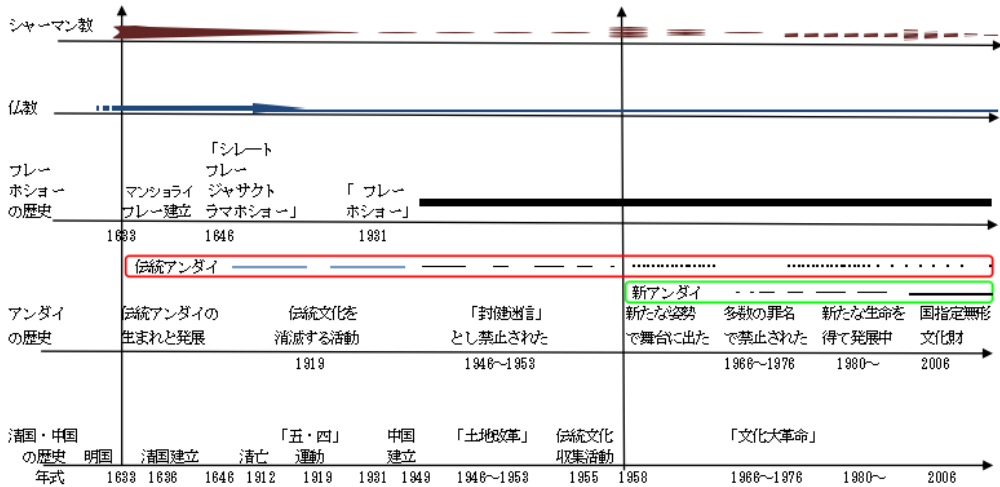
「伝統アンダイ」から「新アンダイ」までの変遷の過程において、政治、宗教、歴史を背景に、性格、役割、担い手、構成が変化し、時代の変遷の中でその位置づけと様相は大きく変容した。これらを【表 5】としてまとめた。

歌の変容と消滅について伊野は、新潟盆踊りを例に挙げ、「近代国家を歩みはじめ、西歐化を進める日本の政策を背景に、政府により風紀上の問題から盆踊りが禁止された」(伊野 2009 : 294～295)と政治的な要因を挙げている。梶丸は奄美の「八月踊り」が「舞台でより『聞き映え』のする表現を求めて歌の音楽性をますます高めている」ことを指摘した上、旋律と音数律が評

内モンゴル「アンダイ」の変遷から見た「掛け合い歌」の消滅（娜布其）

価の中心となり、歌の言語的側面が後退していると述べる(梶丸 2013 : 244)。このように、歌の変化に関わる要因は多数みられる。「アンダイ」における「掛け合い歌」はどうだろう。

【図3】 「アンダイ」の歴史的背景



【表5】 「アンダイ」の変遷

アンダイの区別	アンダイの種類	中心となる担い手	構成の特徴	掛け合い歌	歴史的な背景と「アンダイ」
「伝統アンダイ」 誕生～ 1957年	①「治病アンダイ」 ②「雨乞いアンダイ」 ③「娯楽アンダイ」	シャーマン・歌い手・踊り手 リーダー・歌い手・踊り手 歌い手・踊り手	「儀式、歌、踊り」の一体化 「儀式、歌、踊り」の一体化 「歌、踊り」の一体化	誕生 隆盛	清国：ラマ教を導入し、シャーマンが追い出された。 アンダイ：生活の経験を宗教と結びつけ、儀式の方式で「アンダイ」実施。 中国：[1]1919年の「五・四運動」で「アンダイ」を禁止。 [2]1946～1953年の「土地改革」で「アンダイ」を禁止。
「新アンダイ」 1958～現在	①「フォークダンスのアンダイ」 ②「アンダイ劇」 ③「アンダイ体操」	踊り手 踊り手 踊り手	「踊り」の独立化 「踊り」「歌」「宗教」の分割化 「踊り」の独立化	消滅	[3]1966～1976年の「文化大革命」で「アンダイ」を禁止。 アンダイ：1958年民族の「アイデンティティ」をめぐる視点が初めて「フォークダンス」の形で全国の舞台上上がり、人々に「アンダイ踊り」として知られた。 2006年6月に「国指定無形文化財」となった。 ダンス、劇、体操などの多方向で発展

まず、政治的な背景として、革命運動が続き、古い文化を消滅させる活動の影響が深い。竹内は中国の文化観について「これも置いておき、あれも置いておいて、そこに新しいものをつけ加えるということではなしに、一応とにかく鑄つぶして、そして新しい民族のエネルギーの再出発をやるという」(竹内他 1967 : 269)と指摘するが、1919年の「五・四」運動、1946～1953年の「土地改革」運動、1966～1976年の「文化大革命」運動それぞれにおいて「アンダイ」は禁止・撲滅の対象となった。「アンダイ」だけではなく、「アンダイ」で主体となるシャーマンや歌い手、さらに後期の「アンダイ」収集活動に参加した人々も糾弾された。このように「ア

ンダイ」を消滅させる活動、禁止する活動が続いた上、担い手の主体であるシャーマンと歌い手が追い出され、糾弾されることによって、「伝統アンダイ」は行い難くなった。このような状況でも、1930年代はまだ「伝統アンダイ」が行われていた。しかし「文化大革命」に至って「伝統アンダイ」は消滅の危機に陥る。姫田他は「文化大革命—民族文化の抹殺」と題した中で、「宗教を含め民族的存在はすべて『破旧立新』のスローガンのもとで破壊の対象となった」(姫田他 1993: 294)ことを指摘している。内モンゴルでは多数の人が「新蒙古人民革命党」組織の委員とされ、糾弾された。このような状態で、団体活動としての「アンダイ」を行うことは不可能になった。「文化大革命」の後 1980 年になると、「フレホショー」の劇団が「アンダイの歌」という舞劇を舞台で演じた。しかし「フレホショーが封健、迷信を芸術の舞台にもって来た」と批判された(薩如拉: 284)という。このように、「文化大革命」の思想が 80 年代でも残っていた。

次に、宗教的な背景との関わりを考える。モンゴル族のもともとの宗教はシャーマンを中心としたものであり、代々続けて伝承されていた。明代(1368~1644)後半からシャーマン教が政治的な政策によって追い出されはじめ、清代(1636~1912)になると、ラマ教の導入によって、シャーマンが弾圧され衰退した。「モンゴル人は病気になっても医者に行かず、まずラマの念仏をしてもらおう。干ばつ、病気、災害など多数のことを、モンゴル人はすべてを悪霊、悪魔の祟りと思い、すぐラマを要請し念仏、厄払いしてもらおう」(曹永年 2007: 408)ようになり、モンゴル人の宗教は次第にシャーマンからラマ教に移行していった。人々の信仰が変わっていく上に、「破旧立新」思想の影響が加わり、「伝統アンダイ」を行うことが無理な状態となっていた。この影響で、「アンダイ」を復活させる際、シャーマンの儀式とそれに深く関わる歌が捨てられ、「踊り」だけになった。

「伝統アンダイ」は「宗教、歌、踊り」が一体となって行われていた。その内どれが欠けても完全なものにはなれない。担い手は「シャーマン」「歌い手」「踊り」である。始めと終わりの儀式の次第や病気の状況を把握する場面では、シャーマンが主体となるが、それ以外では歌い手が主体となる。歌の役割は重要でその存在は不可欠である。歌の内容は、その場の状況に合わせて即興的に歌われるもので、踊りは儀式と歌のために必要なものとして行われていた。儀式と歌は病気を治すための核であった。中でも、「掛け合い歌」は病気を治すためのものであり、雰囲気盛り上げるものでもある。人々にとって魅力があり、楽しみとするものであった。これ故に「アンダイ」が順調に続けられ存在していたと考えられる。

「グループの合戦」「アンダイ場の奪い合い」など、病人の回復の兆しがみられ、走る際には、雰囲気が盛り上がらないと病気が治らない。この時、歌と踊りが雰囲気を高揚させる。こうして病人、儀式、歌、踊りが一体となる空間は、掛け合いを生み出していった。しかし、シャーマンが追い出され、儀式そのものが禁止され、歌う内容が制限された時、「伝統アンダイ」は解体され、「踊り」「劇」「体操」といった形で独立して発展していくことになる。その過

内モンゴル「アンダイ」の変遷から見た「掛け合い歌」の消滅（娜布其）

程において「掛け合い歌」の生まれる空間は消えていった。

「伝統アンダイ」から「新アンダイ」への変化の背景においては、人々の鑑賞観の変化の影響もあると考えられる。「伝統アンダイ」では、人々は自ら歌い、踊った。また、歌われる内容を聞き、それに対して即座に歌い返したり、掛声をかけたりしていた。このように相互に歌い合うこと、掛け合うこと、即興的なコミュニケーションをとることが「良し」とされていた。しかし、現在は、歌でも踊りでも、専門的な訓練を受けていない人のものはつまらないもの、練習しないで即座に歌ったり踊ったりすると失敗して恥ずかしいと思ってしまう風潮がある。人々の楽しむ方法は「自らやる」ことよりも「他人の行為を見る」ことへと変わっていった。また、団体意識が変化するとともに、歌を掛け合って楽しむよりも身体表現や言葉の美しさを追求するようになった。このように、政治的影響、信仰の変化、意識の変容により、「アンダイ」における「掛け合い歌」はその存在する空間を失い、現時点では復活は困難となっている。

## <注>

- 1) 地名。中国語で庫倫旗のこと。庫倫旗は中国内モンゴル自治区通遼市の南部に位置しており、南は遼寧省の阜新モンゴル族自治県と彰武県と隣接し、西、北、東はナイマン旗とホルチン左翼後旗と隣接している。総面積が4716平方キロメートル。モンゴル族を主体に、回族、満族など11民族が居住する。
- 2) 2011年3月に、内モンゴルのフレイホショーで「デーリンチャホラボー」と「アンダイ」の現状についての調査を行った。2014年2月～4月に、内モンゴルの通遼市蒙古族小学校、フレイホショーのフレイ鎮、下養畜牧村、タブンゲル村、下ウラン村、科爾沁左翼中旗の宝龍山鎮、科爾沁右翼中旗バインホショ鎮にて「掛け合い歌」の調査を行った。
- 3) 「アンダイ」の由来に関わる伝説の一つ。その伝説では、「アンダイという名前の人がある病気にかかって、どうしても治らなかつた。そのため、生きていうちに楽しもうと思い、毎日友人と歌ったり踊ったりして楽しく過ごしたら、病気が治って、人々がびっくりした。それ以降、人々は歌って踊って病気を治すようになり、このやり方をその人の名前前で「アンダイ」と呼ぶようになった（那琴双和爾 2005：7）。
- 4) 悪魔（死んだ人の霊や人間ではないもの）が人の体に入って病気にさせると考えられた。
- 5) 内モンゴルの「デーリンチャホラボー」という「掛け合い歌」は、2人だけの掛け合いであり、掛声はない。歌詞のすべては相手に対して問うもので、それに対して答え、知識の試合を行う（娜布其 2014）。
- 6) 内モンゴル通遼市の蒙古族小学校の「アンダイ体操大会」の写真。撮影：娜布其。
- 7) 盟は行政区画の一単位

## <引用・参考文献>

### <日本語文献>

- 伊野義博（2012）「プータン歌謡ツァンモ―掛け合いと占いの諸相―」『民俗音楽研究』第37号、日本民俗音楽学会
- 伊野義博（2009）「消えた歌―新潟盆踊り歌の軌跡―」『音楽教育学の未来』日本音楽教育学会、音楽之友社
- 小長谷有紀（1992）『モンゴル万華鏡―草原の生活文化―』角川書店
- 梶丸岳（2013）『山歌の民族誌―歌で詞藻（ことば）を交わす―』京都大学学術出版会
- 竹内好、野村浩一（1967）『中国』第一巻「革命と伝統」筑摩書房
- 娜布其（2012）『内モンゴルと日本の民謡の比較と指導法―掛け合いの視点から―』新潟大学大学院教育学研究科修士論文
- 娜布其（2014）「『掛け合い歌』における『うまい』即興能力とは―内モンゴルの『ウルゲホラボー』の場合―」『民俗音楽研究』第39号、日本民俗音楽学会



姫田光義、阿部治平、石井 明、岡部牧夫、久保 亨、中野 達、前田利昭、丸山伸郎 (1993) 『中国 20 世紀史』  
東京大学出版会

< 外国語文献 >

- ア・ハスンチムグ  
サルラ  
阿・哈申其木格 (2010) 『アンダイの新生と発展足跡』 内蒙古人民出版社
- 薩如拉主編 (2012) 『庫倫アンダイ史論』 内蒙古文化出版社
- 曹永年主編 (2007) 『内蒙古通史』 第三卷、内蒙古大学出版社
- チゲチ、デージド、バートル (1984) 『アンダイ』 内蒙古人民出版社
- ナチンシヨンホル  
フアグシント  
那琴 双 和爾 (2001) 『アンダイ文化研究』 内蒙古文化出版社
- 呼格吉樂図 (1997) 『蒙古族音楽史』 遼寧民族出版社
- 博特樂図 (2009) 『アンダイ詞曲集成』 内蒙古人民出版社
- バ・蘇和 (2009) 『アンダイ文化研究集成』 内蒙古人民出版社
- 包金剛 (2006) 『ホールチ与胡仁烏力格爾 好来宝 叙事民歌』 内蒙古人民出版社
- モンゴバヤル  
ジンハイ  
チム チドルジ  
ホリチヤ  
ハスバグン  
金海、齊木徳道爾吉、胡日查、哈斯巴根 (2009) 『清代蒙古志』 内蒙古人民出版社
- フングアンユイ  
ユンセンチヤフ  
冯光钰、袁炳昌 (2007) 『中国少数民族音楽史』 第一卷、京華出版社

主指導教員 (伊野義博教授)、副指導教員 (横坂康彦教授・森下修次准教授)